



負傷者の治療順位を決めるトリアージを行う救急隊員ら—京都市山科区

地域全体で災害に備える

警察・消防・区など合同訓練

地域全体の災害への備えを充実させようと、洛和会音羽病院（京都市山科区）で23日、府警山科署や山科消防署、山科区役所などが防災訓練を行った。警察官や消防隊員、同院の医療スタッフら約280人が訓練に参加した。

この日は、大型バスと乗用車が正面衝突する交通事故で乗客ら46人が負傷したという想定での訓練や、府南部に震度6強の地震

山科区の病院で280人参加

が発生したという想定などで訓練が行われた。

交通事故訓練では、警察官が事故現場の交通規制を行い、消防隊員が衝突した車の中から負傷者役を救出。救急隊員が治療順を4色のマーカー付きカードで表示するトリアージを行う訓練などを行った。

同院の山本曜一救急救命士（62）は「訓練を重ねることでお互いを知り、いち早く負傷者を救うことができる」と話していた。